

# 古代都城の金属器生産

杉山 洋

Production of Metal Wares in Ancient Castle Towns

はじめに

- ①既応の研究
- ②各期の遺跡

まとめ

[調査範囲]

本稿では飛鳥時代から奈良時代にかけての七世紀後半から八世紀の都城を対象に、金属器関係の工房、わけても青銅器の生産に焦点を当て、当該期の手工業生産のあり方をとらえてみたいと考えている。近年、飛鳥池遺跡を始めさらに多くの関係する遺跡調査例が知られるようになり、それらを総合した考察が必要とされるに至っている。まず飛鳥地域、藤原京、平城京における関係する遺跡の調査成果を述べ、飛鳥地域は、飛鳥池を中心とする寺院工房の存在を、藤原京では本格的な都城での金属器生産の萌芽をとらえた。平城京では藤原京から発展した京内の大小宅地内における金属器生産のあり方をとらえた。さらに平城京内の貴族邸宅の家政機関に所属する工房、平城京南部の小規模宅地の工房、それと造東大寺司の広範囲な活動を含めた、工人の移動と古代における寺院工房の位置付けを試みた。